

ひと
女ひと
男

男女が共に生きるメッセージ



パートナーシップ

問合せ先 企画課男女共同参画推進係 ☎72-2111内線222

「夫は仕事、妻は家庭」？

「夫は外で仕事をし、妻は家で家事や育児に専念すべきだ」という考え方があります。家庭によってさまざまな役割分担の仕方がありますが、これを性別によって固定的に分けることは「固定的な性別役割分担意識」といって、適当ではありません。あなたは固定的な役割分担意識を持っていませんか？下のチェックリストで見てください。

家庭で

- 家事や育児、介護は女性の仕事である
- 男性は台所に入るものではない



家事などは性別によって分担するのではなく、家庭の状況や職業を考慮して決めることが適当です。また、自立した生活を送るためにも、男女とも家事をこなせる必要があります。



職場で

- 営業など主要な業務は男性、お茶出しや食器洗い、補助的な業務は女性がした方がよい
- 能力や経験が同じなら、男性の方が女性より管理職にふさわしい

女性は補助的な業務と決めつけるのは適当ではありません。また、「女性はすぐに辞める」「女性は育児や家事があるから残業ができない」などと型に当てはめていませんか。

地域で

- 行事のときの炊き出しは、女性に頼んでいる
- 隣組長や班長は名簿上男性が多いが、実際にその仕事をしているのは妻などの女性である

よく料理をしている男性にも協力してもらうなど、能力に合わせて役割分担をしましょう。また、長などの役職は男性がするものだという思い込みを持っていませんか。

上の例は、固定的な役割分担の一例です。家庭や職場、地域などで、無意識のうちに性別によって役割を固定していることはありませんか。

性別ではなく個人の能力や適性、経験をふまえた役割分担を行うことで、女性も男性もお互いを認め合い、一人ひとりが個性や能力を発揮できる男女共同参画社会を実現しましょう。



おごおり女性ホットライン

☎092-513-7337

月～金曜日／午前10時～午後5時

(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに専門の相談員が対応します。

配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談してください。